

第11回 大阪スマートシティ戦略会議

mydoor OSAKAを活用した堺市のスマートシティの取組

令和6年1月19日

課題解決型スマートシティとして、**公民連携によるスマートシティサービスを実装** 泉北ニュータウン地域での**成功事例を全国展開**

先進技術活用型

うめきた



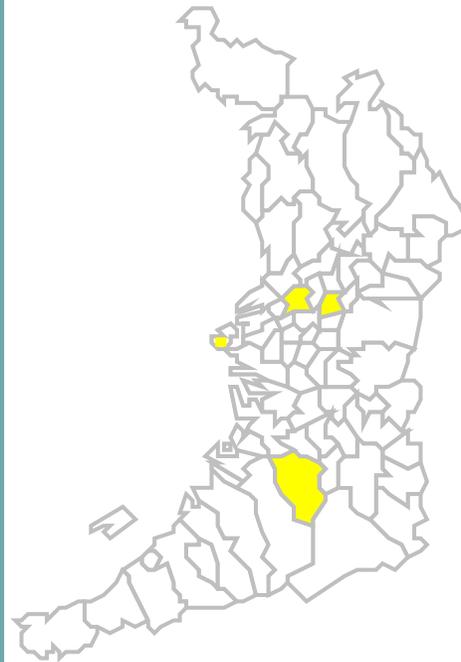
夢洲



森ノ宮



大阪市



課題解決型

超高齢化、インフラ老朽化などの課題
泉北ニュータウン地域



堺市

理念
ICTの活用により、まちと暮らしにイノベーションを生み出し、未来を創る

戦略方針

1 イノベーションを実装する環境をつくる

2 課題解決型プロジェクトをスピーディーに実行する

3 データ連携により新たなサービスを創出する

4 重点的に取り組む（重点地域）

ORDEN及びmydoor OSAKAの活用

SENBOKUスマートシティコンソーシアムの設立

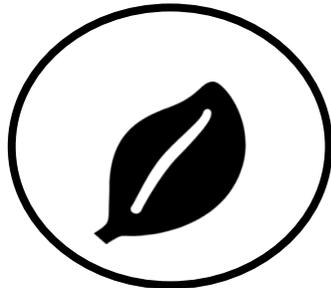
SENBOKUスマートシティコンソーシアム

設立日：令和4年6月27日

会員数：154団体（令和5年12月現在）



モビリティ



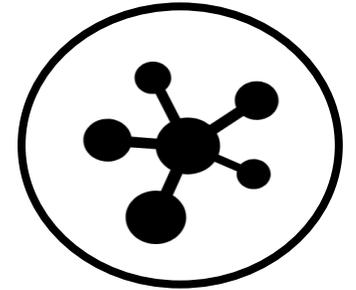
エネルギー



ヘルスケア



スマートタウン



データ連携

第2期AIオンデマンドバス実証事業を実施中

期間

令和5年10月1日～令和6年1月31日

料金

300円

協業

バス利用かつ提携施設利用で割引あり

予約

スマホ・電話

ヘルスケア分野 × モビリティ分野 = 関心の高まり・ユーザー確保

ヘルスケアアプリ「へるすまーと泉北」



NANKAIオンデマンドバス



©2023 Disney and its related entities.

日々の活動でたまるポイントを使って



スーパーや医療機関などにお出かけ

SENBOKU 地域ポータルアプリ

共通のID「SakaI-D」ひとつで、複数のサービスを利用可能に！



データ連携

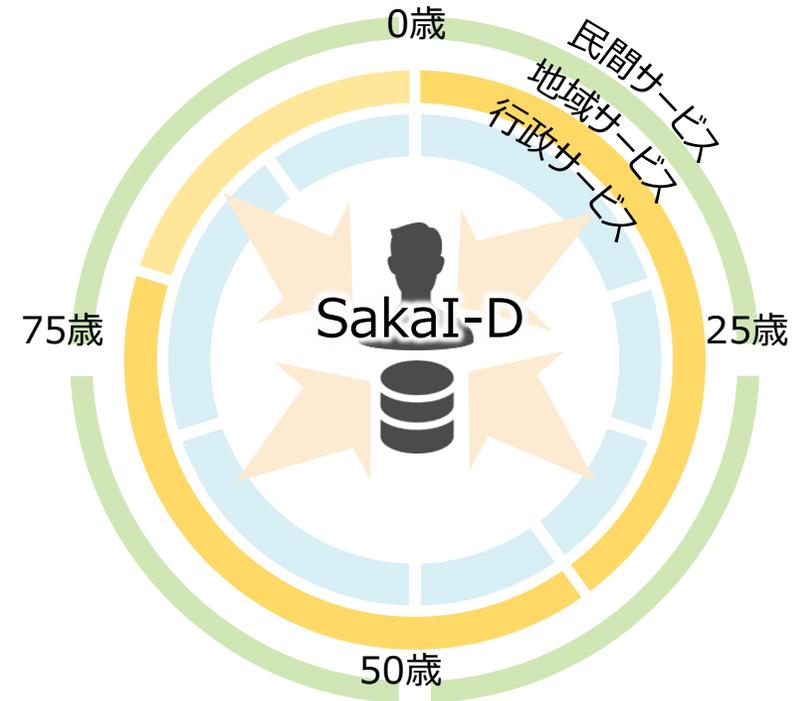
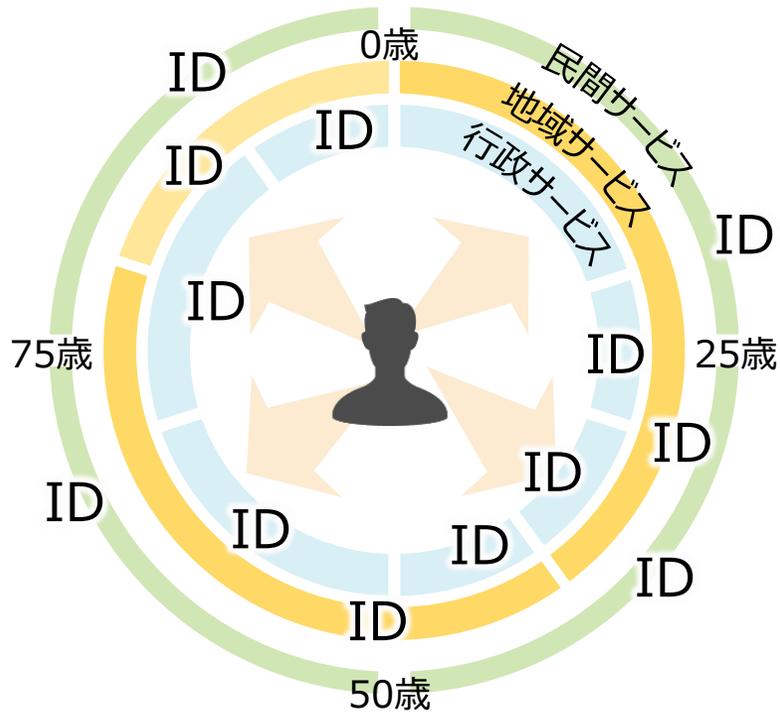


大阪広域データ連携基盤【ORDEN】

SakaI-D活用方針

必要なサービスごとに自分でIDを作って探す

生涯にわたって自分に必要なサービスが届く



※大阪府が整備する広域データ連携基盤「ORDEN」で提供するORDEN-IDのうち、堺市民にかかわるIDを「SakaI-D」と呼びます。

個人の幸せだけでなく、地域を豊かにするウェルビーイングの実現

重点
方針

＜重点方針①＞
「人」にフォーカスした
サービスの提供

ライフステージごとに最適化
された行政サービスの提供

ID連携により、本人が望
む必要なサービスを把握し
提供できる

＜重点方針②＞
個々に寄り添うアウトリーチ型
サービスの提供

行動変容を伴う
サービスの提供

必要なサービスを、必要と
する住民にいつでも届ける
ことができる

＜重点方針③＞
地域・民間事業者
との連携

地域に根差した公民の
サービスの提供

民間事業者や地域で活
動する人々と住民をつな
ぎ、公民のサービスをワン
ストップで提供できる

サービス
拡充方針

行政分野での展開

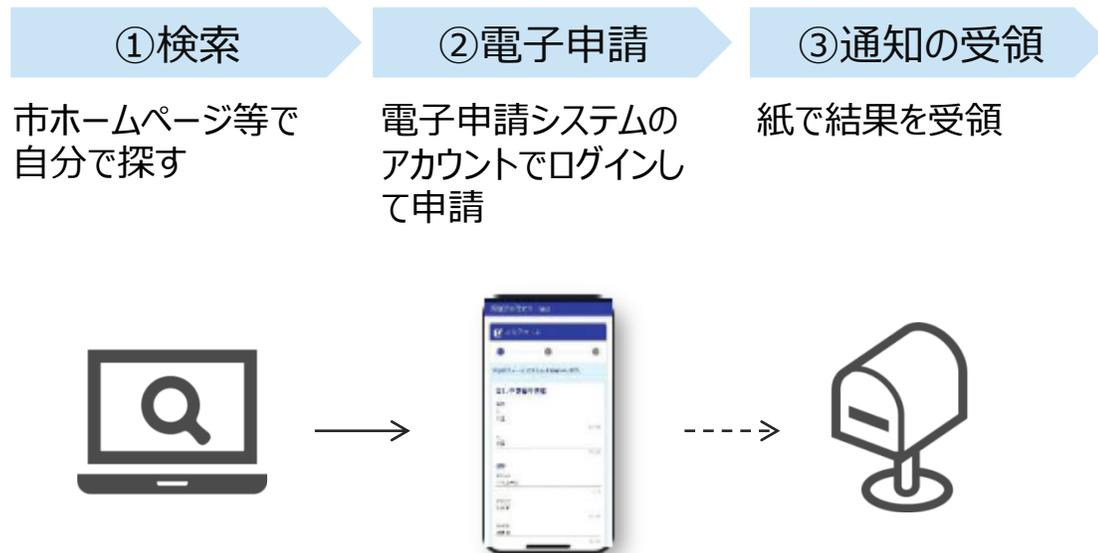
公民連携分野での展開

行政の強みを活かしたタッチポイント（入口）を設定し、サービス展開を加速

住民に必要な手続きを、案内から通知までワンストップで提供

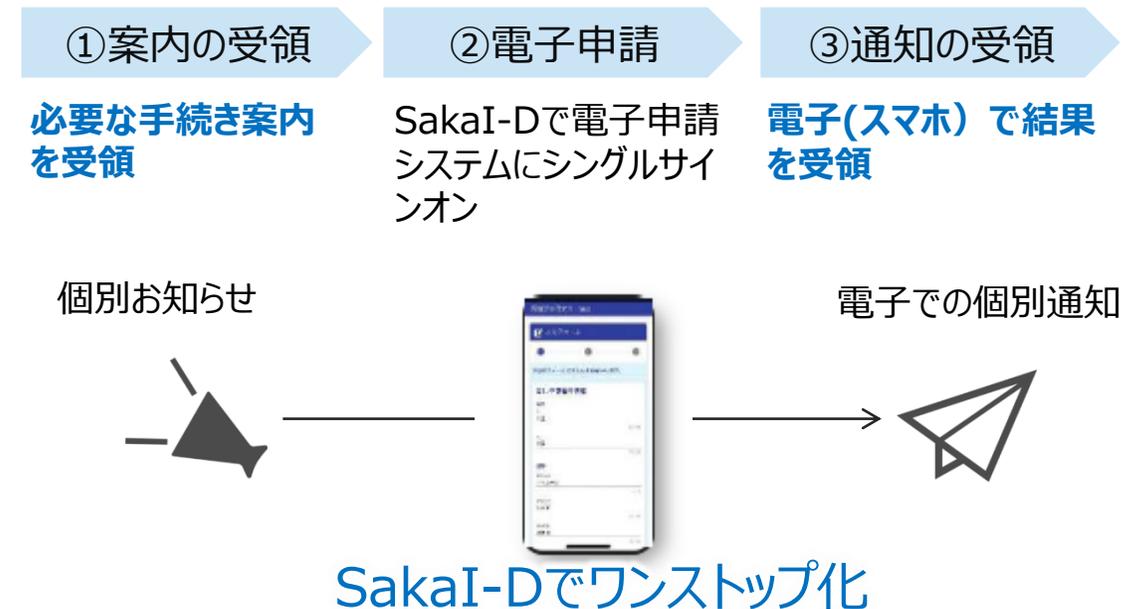
BEFORE

- 申請フローが分断されている
- 発送に時間と配送コストがかかっている



AFTER

- SakaI-Dひとつで案内・申請・通知をワンストップ化



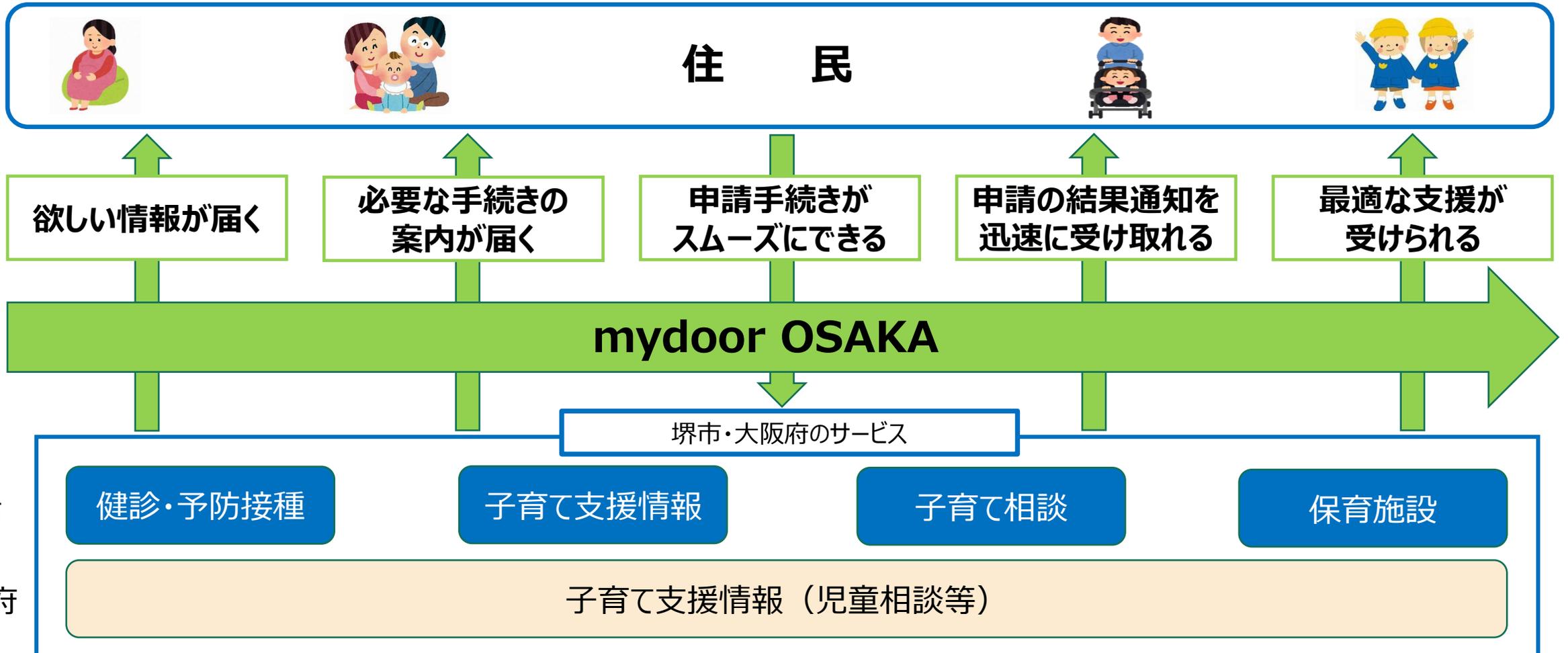
子育て層を中心に、タッチポイント（入口）となる行政手続きからスタート 提供サービスを拡充し、市と府の様々なサービスでQOLの向上を期待

	乳幼児期	学齢期	青年・子育て期	高齢期
堺市	0～6歳	7歳～	図書館貸出カードのスマホ化	
	0～6歳	7～15歳	16歳～	公式LINEアカウントでの勧奨
	0～15歳	子育てアプリとの連携	16歳～	国保加入者への勧奨（窓口・通知）
大阪府	公園や図書館など府営施設等の情報			
	子育て支援「まいど子どもカード」「子ども食費支援」など		健康増進「アスマイル連携」	
			スポーツ推進「施設・グラウンド予約（オーパス）」	
			医療費通知「国民健康保険」「後期高齢者医療」	

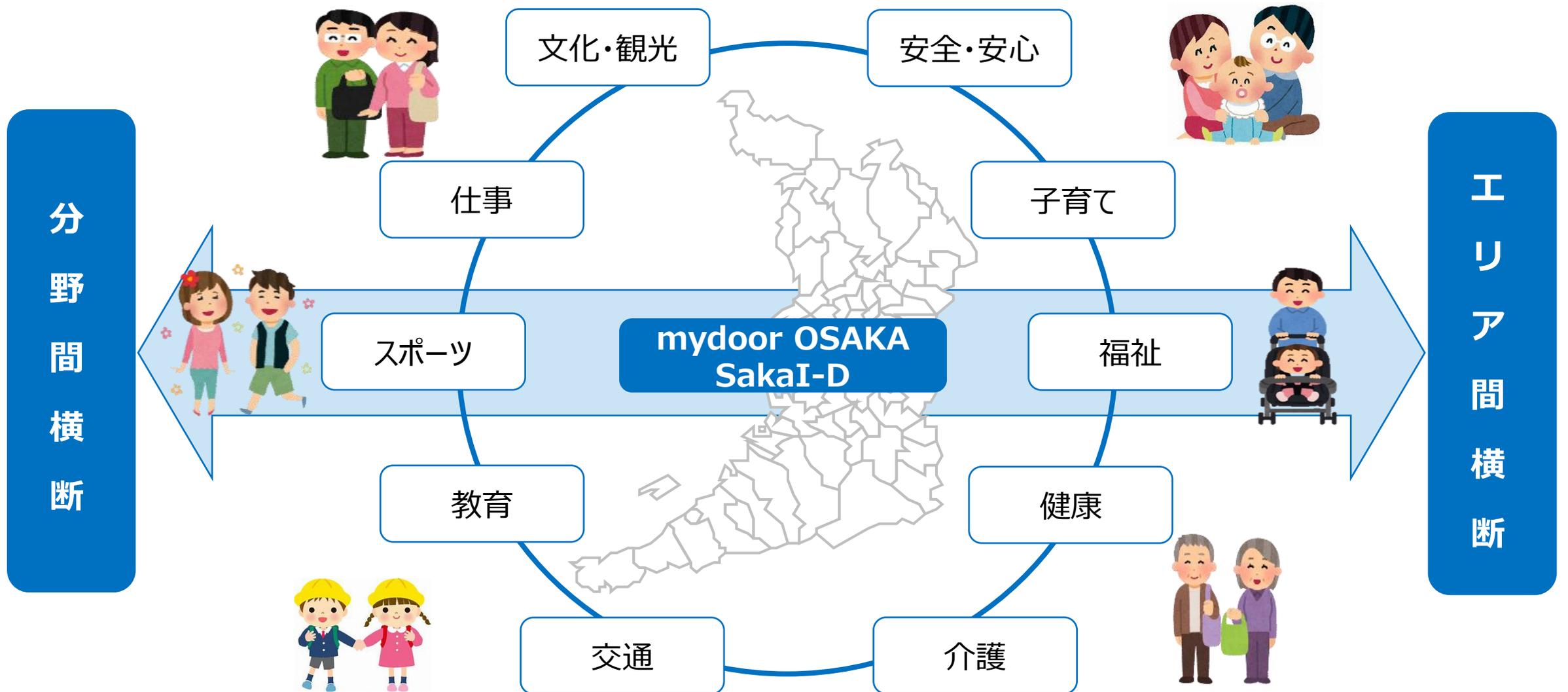
広域連携による住民のメリット

ひとつのIDで市や府の様々なサービスが利用できる

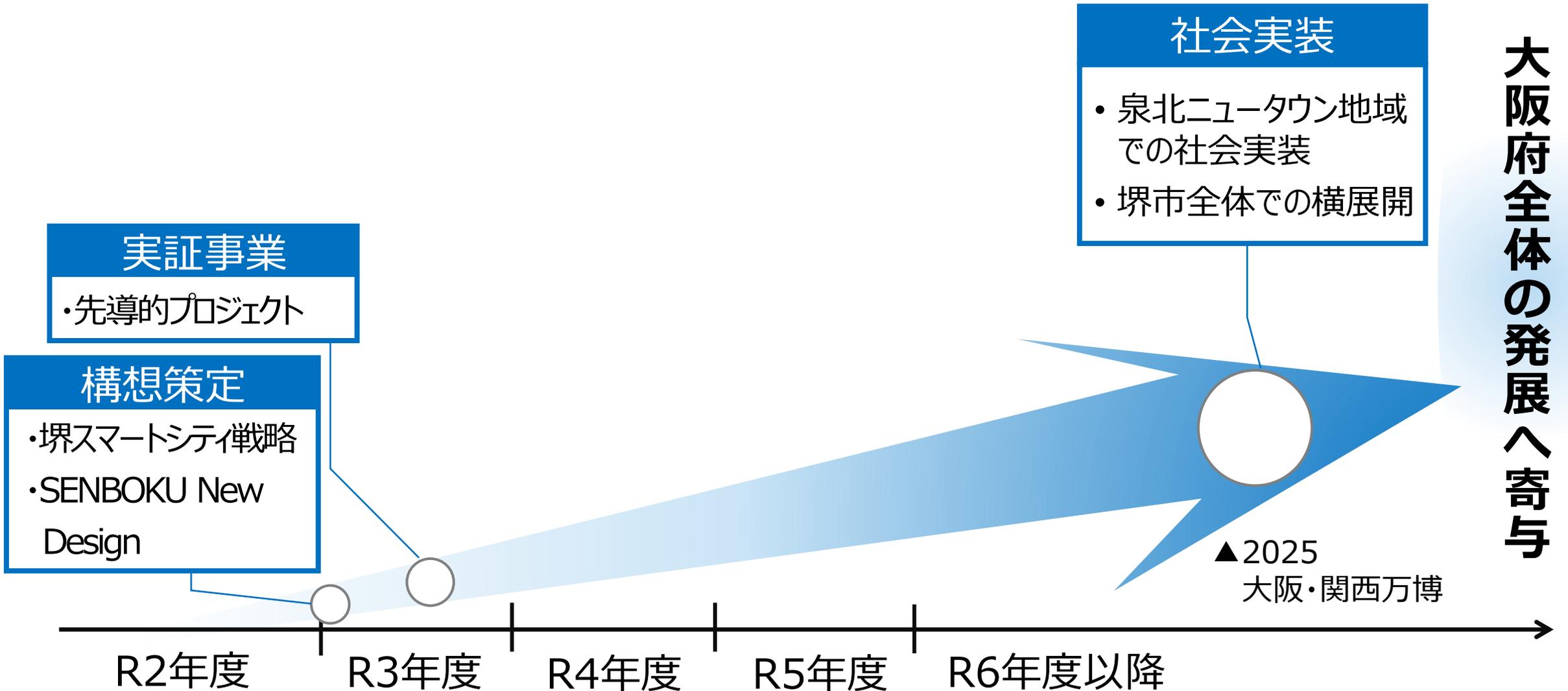
個人のニーズにあった府と市の情報やサービスを住民が探すことなく利用できる



分野とエリアを横断し、公民のサービスを必要な時に逃すことなく利用できる



スマートシティ検討初期に本会議で示した展開イメージ



展開のイメージ（令和6年1月）

広域データ連携基盤の整備、府と市町村へのサービス展開により社会実装が実現

